仲間と親とあゆみ続けて

――32年間の障害者福祉実践

第9回　仲間の高齢化の課題に向き合う②

前回（11月号）はダウン症をもちながら、認知症と闘い続けた愛子さんのお話をしました。今回は脳性まひの障害があり、加齢に加えて、がんという病気とも向き合ってこられた仲間の話をしたいと思います。

脳性まひと知的障害を併せもつ夏子さん

夏子さんは1932年（昭和7年）生まれ。生後4ヵ月の時に発熱により脳性まひになりました。大勢いた姉妹の末っ子で、6歳の時に小学校の普通学級に入学しますが、学校では6年間「お客さん」だったそうです。小学校卒業後は26年間母親と在宅生活を送りました。38歳の時にひとまわり以上歳が離れている姉と名古屋市へ。夏子さんの生活は家政婦をしていたお姉さんが支えました。夏子さんは40歳で名古屋市内の作業所に通い始めますが、45歳の時、姉に迷惑をかけたくないと自殺を図りました。幸い発見が早く一命をとりとめましたが、2年間の入院生活で身体障害が重くなりました。しかしそこから、姉と二人三脚の訓練で、歩行ができるようになるまで回復しました。

1982年、夏子さんは50歳でゆたか希望の家に措置入所しました。身体障害1級、知的障害は重度の判定でしたが、手押し車で生活をされ、軽作業の仕事を16年間務めました。夏子さんは障害の重い仲間と組んで仕事をすることもあり、言葉遣いは少し乱暴なものの面倒見がよく、「ちゃんと仕事しなあかん」と仲間たちに叱咤激励を送っていました。一方で人見知りの一面もあり、外出などの行事は前向きでなく、部屋で過ごすことが多かったです。給料を楽しみにしていましたが外出はほとんどせず、「お金がない」という思いが強くて買い物にも抵抗がありました。

1998年、夏子さんが66歳の時、ゆたか希望の家で高齢期になった仲間たちの日中活動のグループとして「ことぶき班」が誕生。夏子さんは第1期生になりました。ことぶき班では高齢になっても労働をすべて無くしてしまうのではなく、手仕事として「マット」の作業を取り入れました。「マット」は布の端切れのひもを工場からもらい、それを手でみつあみに編んで、縦に組んだ白色のひもの間に、そのみつあみを織り込んでいきます。いろんな色をどう組み合わせるのか、センスが問われる仕事です。夏子さんはがんが進行して入院するまで、17年間続けることになりました。

夏子さんはことぶき班のメンバーになり、同世代のまわりの仲間たちに関心を寄せるようになっていきました。自然に手助けをしたりされたり、後ろ向きだった外出もこのメンバーと出かけるのは楽しいと感じるようになり、仲間とのヨコの関係ができていきました。自分の生活を見つめ、「楽しみ」を見出すように変わっていったのです。また、ことぶき班の昼食は小集団になり、「やかましいのは嫌いで、ここは静かでええなあ」と感じていたようです。仲間の会の役員にもなりました。

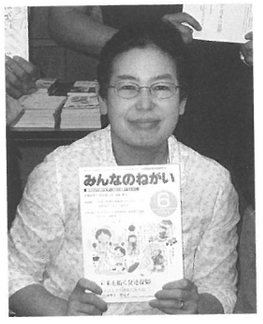
ゆたか希望の家は2009年に女性棟とことぶき班が建て替えになり、2人部屋から個室での生活に変わりました。この頃から夏子さんは転倒することが増え、手押し車から常時車いすを使うようになります。2013年、80歳で胃がんステージⅡと診断され、開腹手術を受けますが、その後、仲間の会の会長を2年務めています。翌年再発し、抗がん剤の服薬を開始、「最期までみんなのいる希望の家で過ごしたい」と望み、施設でターミナルの支援を受けていました。2016年1月に「しんどい」という本人の訴えから病院に入院。その1ヵ月半後の3月、夏子さんは病院で息を引き取りました。83歳でした。

日々の過ごし方と職員とのかかわり

夏子さんは作業に対する意欲が高い人でした。口数少なく、自立心が高く、あまり人に頼ることがない。そんな夏子さんでしたが、時間をかけてかかわっていくなかで、職員の体調を心配してくれて、まわりに気遣いをしてくれるように変わっていきました。仲間に対しては、食事の遅い人に「食べんと死ぬぞ」と厳しい言葉遣いをするかと思うと、仲間や職員の体調を気遣うような優しさがありました。

仕事熱心な夏子さんは、ことぶき班に移り、軽作業の仕事から離れてからも仕事に対する情熱は変わりませんでした。朝の会で「今日は何する？」と聞くと「マットやる」と答えます。夏子さんは毎日生き生きと小マットづくりとみつあみの仕事をしていました。ことぶき班の目的は仕事ではありませんが、夏子さんの〝仕事を続けたい〟という思いを受けて、マットづくりを趣味・生きがいとして続けることをことぶき班では保障してきました。

ことぶき班の手仕事として誕生したマットは、その後、ゆたか希望の家の有名な自主製品となり、仕事を日中活動の中心にしている「くりのき班」現場グループの中心の仕事に変わっていきました。夏子さんは、自分が作った小マットがマットの販売もしているくりのき班を通してお礼金としてお金



ゆたか希望の家相談支援事業所
佐藤さと子
さとう　さとこ／日本福祉大学卒業後、社会福祉法人ゆたか福祉会に勤める。全障研愛知支部事務局長